

2008年新春特集

ファイナンシャルプランナー 伊東秀志さんに聞く

定年退職後、収入が激減する中で数十年続く老齢期を生き抜くには、手持ちの資産を計画的に運用する必要があり、計画の立て方、資産運用のヒントをファイナンシャルプランナー、伊東秀志さん(47)に亀岡市に聞いた。

最近多いのが、退職金の運用に関する相談。超低金利時代が続ぎ、定期預金だけでは利子がほとんどつかない。投資信託や株を始めると人も多いが、現役時代とは異なり、失敗した場合に資産形成のやり直しがきかない。リスクが少なく、+

余剰の資産割り出し、運用に

年、二十年で運用できる分よい。一年ごとに生活費や散投資などの方法なら比較的安心だろう。年間利回りは5〜6%を目標にすると良い。

ただ、資産運用は生活に必要なお金を除いた余剰部分で行うのが大前提。総資産から運用に回すお金を割り出すには、これから九十歳までの暮らしに毎年いくらかかるのかを記したリタイアメントプランを作ると



必要なお金を除いた余剰部分で行うのが大前提。総資産から運用に回すお金を割り出すには、これから九十歳までの暮らしに毎年いくらかかるのかを記したリタイアメントプランを作ると

余剰部分ができれば、運用に回し「お金に働いてもらう」ことを考えても良いだろう。預貯金だけで持っている、インフレが起きる時に実質上の資産が目減りが起きる。長期運用を前提に、リスクの少ない方法を取るならば、投資などで資産運用は有効だろう。

(談)



就業相談をする中高年者。55歳以上の新規申し込みが増え、就業動機に「生活費の不安」を挙げる人が多いという(京都市上京区・ハローワーク西陣)

定年後 まだ働く? 自己流で?

主な就業理由



梅干し入り
和風スープ
豚薄切り肉100g
タマネギ1/2個、ニンジン

1/2本、野菜、干しワカメ、布5枚、豚肉は、マネキは、り、ニンは皮をむき、短冊切りにする。

という実感がある。「定年後の再合、決して現役働きやすいとは

定年後による「中高年者就業実態調査」(2004年)